

令和4年度 第5回(確定稿) 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録

■日 時:令和5年1月10日(火)18時00分～

■会 場:オンライン(Zoom)

1. 報告事項

- (1) 業務報告(令和4年11月・12月)について【資料1、2、3】
- (2) 「軒下ふれあいバザー」について【資料4】
- (3) 業務予定(令和4年1月・2月)について【資料5】

○事務局より、(1)～(3)について資料を用い説明を行った。

【副委員長】「資料2」の相談受付状況にあるボランティア活動関係にはどのような相談が来るのか。

【事務局】ボランティア依頼やボランティアをしたいという相談である。

2. 審議事項

- (1) 令和4年度第4回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録(未定稿)について【資料6】

3. 協議事項

- (1) 令和5年度 事業計画について【資料7】

○事務局より資料を用い説明後、ボランティアはじめて講座について意見をもらう。

【事務局】来年度のボランティアはじめて講座では、傾聴ボランティア養成講習会を行う予定である。以前は車いす体験で操作などを学んでもらっていた。昨年度はボランティア活動者から活動のきっかけなどを話してもらい、活動の紹介などを行った。年々参加者が減少する中で、新たな学びの場を提供しボランティア活動につなげていくことを考え企画している。3年を1ターンとして他のメニューを作っていきたい。

【委員長】はじめて講座のメニューについて委員の意見をいただきたい。

【委員】他市の運営委員会にも出ているが、今までは活動を知ってもらう座学であった。しかし、実際に体験してもらう方が初めての人には良いという意見があり、来年度は内容の見直しを行い、街歩きなどをしていこうという話が出ている。

【委員長】昨年度の活動者から話を聞くという内容での感触はどうだったのか。

【事務局】参加人数は少なかったが、開催日が定年退職を迎える時期で退職される方々の参加があった。活動者の話を聞きボランティア登録につながった。

【委員長】参加者の男女比はどうか。

【事務局】女性が多かった。

【委員長】他に意見はないか。

【理事】NPO 市民フェスティバルなどを利用して、どのようなボランティア活動に興味があるか市民からアンケートを取るのも良いのではないかと。年齢層によって興味の対象も違ってくると思う。

【事務局】来年度予定している傾聴ボランティア養成講習会も市民から複数の問い合わせがあり、既存の傾聴ボランティアグループからも後継者が欲しいという相談があり企画している。ボランティアセンターが把握できていないところで教えてもらいたい。

【委員長】特技を活かしたいという人に対して何かないか。

【委員】自分が参加を考えた場合、趣味や特技を活かしたい。はじめて講座の時間はどれくらいか。

【事務局】内容に合わせてである。昨年度のような内容であれば1時間半くらいだが、傾聴ボランティア養成講習会は全5回くらいで1回2~3時間くらい必要である。

【委員】傾聴ボランティア養成講習会をはじめて講座としてどのように行うのかイメージが湧かない。今までの傾聴ボランティア養成講習会のプログラムではハードルが高くなってしまっているのではないかと。ボランティアセンターとしてどのように考えているのか聞きたい。

【事務局】今までの傾聴ボランティア養成講習会にはじめて講座の目的を被せることを想定している。傾聴を学びたい人も、傾聴に来て欲しいという依頼も数多く、実際に活動につながっているのも事実である。

【副委員長】コミュニティスクールも始まり、学校は学習支援や校内での居場所の見守りなど1対1でできるボランティアを希望している。そのようなボランティアが多く登録してもらえると良い。また、最近は教養講座で学びたい人も大勢いるため最終的に活動につながるのか気になる。今までの傾聴ボランティア養成講習会はグループ化され団体登録をし、活動しているが今後も同様に考えているのか。

【事務局】ボランティアセンターとして新しくグループを立ち上げるのか、既存のグループに入るのかを決めることはしない。受講者と一緒に考えていきたい。但し、受講者には単なる教養講座ではなく、ボランティア活動で活かしてもらいたいので募集する際には伝えていきたい。傾聴ボランティアグループ連絡会とも一緒に考えていけるので、ボランティアセンターとしてもやりがいがあるテーマだと思う。

【副委員長】受講後についての意識づけが大事ではないか。グループが出来たらグループ内でのスキルアップ、フォローアップをボランティアセンターが支援していくことが大切だと思う。

【委員長】傾聴はどんなボランティアでも活かせると思うが、子どもに関わりたい、高齢者に関わりたい、特技を活かしたいなどの動機を持っている人たちが一歩踏み出すための道筋や、プロセスが分かるような体験談を分野別で何人かに話してもらいたいのではないかと。

【事務局】ボランティアを始めるにあたりハードルが高いと感じている人はいる。ボランティア活動の入り口は限りなく広く、低いハードルで良いと思う。その中でボランティア活動に触れてもらい、色々な人に出会い自分自身のスキルアップができるような場を設けることがボランティアの育成につながるのではないかと。例えば、日常的にスマートフォンを使いこなしている若者に、その特技を活かしてボランティアをしてみないかと提案することができる。また、人生経験が豊富な年配の方々には、その経験を活かした活動につなげることができる。自分が今までやったことがないボランティア活動を希望する人もいれば、自分がやってきたことをボランティア活動に活かしたい人もいる。万人向けの講座を組み込んでいきたい。

- 【委員 長】ボランティアに興味を持っている大学生も多いが最初の一步が難しい。ロコミや先輩や知人、先生からの紹介などが始める動機になるのではないか。
- 【委員 員】ボランティアセンターに入る依頼の中で、その依頼に応えられるボランティアが必要だと思われることはないのか。
- 【事務局】例えば高齢者施設から書道を指導して欲しいという依頼が多くある。登録ボランティアの趣味・特技の欄に書道と書いている人に活動紹介をするが、指導はできないと断られてしまう。
- 【委員 員】マッチングの段階で指導ではなく、一緒に書きましようとはならないのか。先ほど副委員長から学習支援の話が出たが、NPOが行っている学習支援ではなく、学校の居場所などで支援できるボランティアを紹介することは可能なのか。ボランティアが持っている特技を活かすためには掘り下げていく方法を考えても良いのではないか。
- 【委員 員】傾聴の講座を受けた仲間が傾聴サロンを行っている。講座で学んだことを忠実に守り活動している。傾聴活動は大きな役割を持っている。とても大切な講座だと思うので是非開催して欲しい。受講者の中にはボランティアを目的とせず自分自身のために受講する人もいる。そのような人をボランティアグループにつながるようにボランティアセンターが導いてもらいたい。傾聴以外では家で出来るボランティアとはどのようなものがあるのか興味がある。出向かなくても家で出来て役に立つのであればやってみたい。
- 【委員 長】講座を通して、守秘義務やボランティア活動で守らなくてはならないことを学ぶ入り口としては良いと思う。
- 【委員 員】ボランティアを受け入れる側としては、ハードルは低く安心して活動してもらえる場であることを知ってもらいたい。
- 【委員 長】受け入れ側とボランティア活動者との対談も面白いかもしれない。
- 【委員 員】ボランティアはじめて講座とはボランティアをしたい人が来る講座だと思うが、こんなボランティアがあるのだと、様々な活動を知ってもらう機会になると良い。幅広い年齢や立場の人を対象にするのも良いし、アンケート調査でニーズを把握しターゲットを絞るのも良いのではないか。
- 【委員 長】特技を活かしたい人もいるが、何か役に立ちたいと思っている人の可能性や気づきにつながる講座も良いのではないか。
- 【事務局】気づきを目的とする講座は今までにない発想で面白いと感じた。いただいた意見を活かしていきたい。

(2) 委員選出について【資料 8】

- 【事務局】現委員のうち4名が任期満了に伴い、新たな委員の候補者に打診している。

4. そ の 他

(1) 次回 運営委員会日程について

■日時:令和5年3月14日(火) 18:30~ (または 18:00~)

■会場:田無総合福祉センター 第3会議室 (または オンライン【Zoom】)

資料 1: 西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告(令和4年11月、12月)

資料 2: ボランティアコーディネート状況月次報告(令和4年11月)

資料 3: ボランティアコーディネート実績表(令和4年11月)

資料 4: 軒下ふれあいバザー 実施報告

資料 5: 西東京ボランティア・市民活動センター事業業務予定(令和5年1月、2月)

資料 6: 令和4年度第4回運営委員会要点記録(未定稿)

資料 7: 令和5年度 事業計画(案)

資料 8: 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会 候補者リスト

参考 : ボランティアのつどい(2023.3.5) チラシ